

退職後の地域活動・社会的活動の意義に関する調査研究

第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
 主席研究員 鈴木征男

1. 研究の背景

- (1) 団塊世代の大量退職の始まり
 (2) 職業からのリタイアは、ライフデザインの再構築を求めている

サラリーマンにとって仕事とは、
 ①生活を維持するための所得をもたらす
 ②毎日の生活行動を秩序立て、
 ③個人にアイデンティティの感覚を与え、
 ④社会関係の基礎となり
 ⑤人々に有意義な人生体験をもたらすものである。

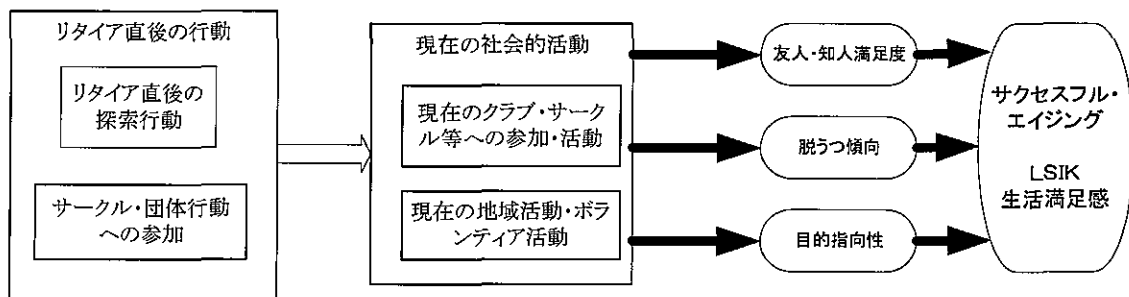
- (3) 社会的行動・活動の重要性
 (4) リタイア直後の準備行動が、その後の活動の方向性を決める

「インプリンティング理論」

この理論は、孵化したばかりのひな鳥に動き回る対象を見せると、あたかもそれが親鳥であるかのように追いかけて、他のものは見向きもしなくなる現象を人間の乳幼児の学習にも適応できると考えから始まっている。すなわち学習内容によっては、その時期に行われないとそれ以降は成立しにくくなる時期（これを「臨界期」という）があるという考え方である。

2. 研究仮説と調査概要

- (1) 調査研究の全体的フロー（図表1）



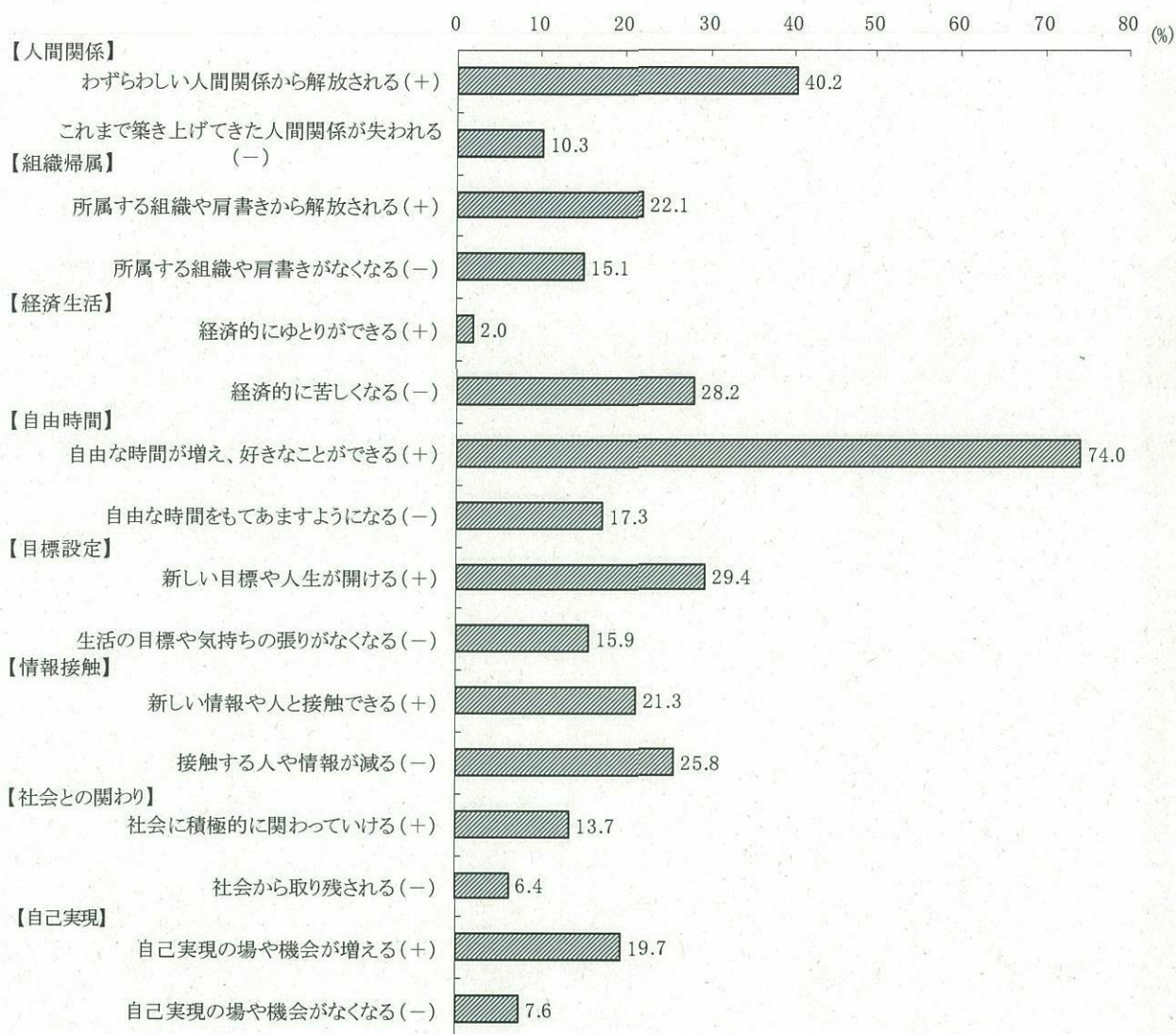
(2) アンケート調査概要

- 1)調査対象：60～79歳の無職男性（基本的にサラリーマン退職者）
 2)調査対象地域：全国（当研究所生活調査モニター）
 3)調査時期：2006年11月
 4)調査方法：郵送法
 5)回収状況 発送数：791名、有効回収数 497名（有効回収率：62.8%）
 6)対象者の属性

図表2 最終リタイア年齢（現在年齢別）（単位：%）

		最終リタイア年齢						全体 (人)
		59歳以下	60歳	61～64歳	65歳	66歳以上	無回答	
現在 年齢	60～64歳	23.5	54.4	22.1	0.0	0.0	0.0	68
	65～69歳	8.1	34.8	37.3	16.1	3.1	0.6	161
	70～74歳	4.5	19.6	21.2	23.5	30.7	0.6	179
	75～79歳	2.4	14.6	13.4	20.7	48.8	0.0	82
	無回答	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	7
	全体	8.5	28.4	25.2	17.3	20.3	0.4	497

3. 職業からのリタイアの評価 (図表3)



4. 地域活動・ボランティア活動の参加率 (図表4)

